



# からしだね

キリストの受難  
カトリック池田教会

2015年  
6月号 (506号)

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父  
協力司祭：デニス・マックゴワン神父  
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624  
URL (ホームページ) :  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



ヴェトナム・ホーチミンの聖マリア大聖堂

巻頭言 .....	2	6月のガラスケースの言葉 .....	3
みことばの分かち合い .....	4	大阪カナの会から .....	4
来住英俊著「気合の入った キリスト教入門」を紹介する...	5	宝塚黙想の家から .....	8

表紙写真 撮影：柳場 久雄

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です。  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください。

## 巻頭言

## 「新生計画20周年の振り返りは、新生福音宣教への目覚めの時」

畠 基幸神父

今年は司牧チームの司牧目標の一つに、「新生計画 20周年振り返り」を取り上げました。これは、「チャレンジ、新生福音宣教」の新生計画20周年メッセージ（教区時報1月号）の中で、前田大司教様が、「震災20年を機に、もう一度、大阪教区の新生計画を検証し、教区の歩みを確認し、足りないところは再挑戦し、見直すべきところは勇気をもって見直しましょう」と呼びかけられ、この趣旨に基づく教区の方針として、本年を「新生計画」振り返りの一年として位置づけられたからです。その中で、「教会共同体に集う一人ひとりが大切にされるように」という発言が気になりました。それは小教区内にあっても谷間に置かれた人たちに気づかずにいたかもしれないという反省や悔い改めの回心、そして、子供の信仰教育、外国人と共につくる教会、現実の社会で厳しい選択を迫られる社会人の信仰（高山右近の証し）などの「新しい福音宣教」のチャレンジが必要との認識を吐露されています。

池田教会は、御受難修道会の唯一の小教区として、設立されて以来、宝塚から豊中にわたる阪急沿線と川西市猪名川町豊能町に及ぶ地域を御受難会の司祭が司牧を担当し、その大半をデニス神父とその協力者の労苦によって和気藹々と運営されてきました。本年には幼稚園創立50周年、司祭叙階60周年記念を祝い、開拓伝道から始まった一つの宣教師の教会時代が終わることになります。教区では1995年の阪神大震災による「新生計画」の地区制とブロック制、地区宣教評議会、教区宣教司牧評議会そして共同宣教司牧チーム、新評議会規約と実現し、「新生の明日をもとめて」のプログラムが次々と実施されました。池田教会の現状を見ると、教会活動が充実していた32年前の日生中央教会設立当時のメンバー、21年前のカール記念館設立当時のメンバーは、現役から退き、中には90歳を超える高齢となっております。そして少子化の波が押し寄せ子供たちの数は減少傾向です。

いま新しい時代が始まりつつある。その萌芽が見えています。デニス神父が園長、主任だった時代の小学生や幼稚園児が今は立派な信徒として成長し中核を担う存在です。ところが、彼らは厳しい社会の現実の中で、信仰を生きることの困難さを誰よりも感じている世代であり、信仰に疑問を感じて教会から脱落し信仰を捨てた人も多いのです。折角築き上げた先輩神父たちの宝物のような貴重な交わりが砂上の楼閣のように崩れていく様を見聞きします。でも、信仰は高い倫理の理想を掲げる孤高の城ではなく、恵みの福音で、イエスの命そのものによってゆるされ愛された子供の喜びであり、孤独から解放され生かされた者の最後の砦です。他人のおが屑を裁くのではなく、自分の丸太を取り除かれた感謝で満ち溢れるべきです。その恵みを味わわないままに、世の力と魅力に兄弟姉妹たちが虜になりさらわれたかのような印象を受けるのは私一人ではないと思います。

教皇フランシスコは、回勅「信仰の光」や回勅「福音の喜び」で、イエス・キリストとの人格的出会いを強調しています。イエスとの出会いの素晴らしさ、信仰の本質、神の愛と真理を強調されます。私たち自身がその愛と喜びに満たされなければ、何を与えることができるのかと……。みことばを中心とした教会づくりという方針を、セブンステップ方式によるみことばの分かち合いを始めましょうと私は提唱しています。この分かち合い方式は、生きているイエスの現存を体験することを目的にしています。互いの現存と主の現存。響いた言葉を黙想して、語りかけに耳を傾ける。こんなことが、出会いの喜びとなるのです。新しいチャレンジに向かって歩み始めましょう。「新生計画」は過越の神秘、復活のいのちに生きる計画です（注）。耳慣れない知らない世界のこととしないで、イエスの福音的な姿を現実の教会生活に生かす方針として信仰者であれば誰にでも自分のこととして受けとめられるものです。「新しい福音宣教」は、そこから出発します。

過越の神秘を締めくくる聖霊降臨祭は終わっても、聖霊の降臨は毎日必要な恵みです。洗礼によって「神の愛が注がれた」（ロマ5・5）恵みを日々新たに受け取り、生きていく力を必要としているからです。「父の賜物である聖霊のしるし」を受けなさい。これは、堅信の秘跡の制定句ですが、秘跡のしるしとして油の塗油を受け、言葉の通りキリスト（油注がれた者）の業を行うために、単に秘跡としての一回限りのしるしではなく、しるしが示す恵み「父の賜物である聖霊」を日々願い求める必要があります。私たちが愛された子として、父のみ心を行うことができますように、聖霊の豊かな注ぎを願ってやみません。

**聖霊 来てください！！！！**

注意：

「新生」という言葉の意味は、「新生」基本方針の第一パラグラフに、（1）大阪教区が目指す阪神大震災からの「再建」計画は、単に地震以前の状態に復旧することではない。キリストの十字架と復活（過越の神秘）の新しい生命に与る「新生」への計画であると定義している。

## 6月のガラスケースの言葉

信じない者ではなく、信じる者になりなさい

ヨハネ 20-27



## 「みことばの分かち合い」の体験記 (5月3日)

「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」

ヨハネによる福音15章5節

しっかりと意志をもって聴き、心に留めているつもりである。

ただ「福音のみことば」を聞くだけになっているのが、どこか否めないまま月日を過ごしてしまいました。選んだことばや節を繰り返す。少なくとも、その日その時点で自身が選んだ「みことば」は心に刻まれるであろう。

日本人男性の平均寿命80.21歳(昨年)と考えると、私にあと約30年の時間がある。これが多いか少ないかは、自身の時間の使い方次第とはなりますが、少しずつでも「みことば」を心に刻む時間の使い方を過ごしていきたいと考えます。

今回「わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」という箇所を私は選択した。まさしくその通りである。

この「みことば」は、はっきり感じ心に刻まれた。

Y. T



## 大阪カナの会がお出合いパーティーを計画

大阪カナの会は神のみ心にかなう縁組を促進するために設立されたボランティア組織です。カトリック大阪大司教区の認可を受け発足し、64年になります。

梅原神父様を指導司祭に、各教会から選ばれた委員が隔月に集い、情報を交換して、ご紹介に努めております。信者だけでなくカトリック信仰に理解のある方々の申し込みも含め、今までに八千余名おられ、990組の結婚成立を数えております。

今の世の中は、生活が便利になり独身でもいいという若い方が多くなっています。しかし結婚適齢期は、男性は30～45歳くらい、女性は20～35歳くらい、昔と変わりません。健康な子どもが恵まれるために、時期は大切です。お出合いの機会の少ない方々のために大阪カナの会では情報を提供し、お見合いのチャンスを作ります。

また、今年の夏8月16日(日)には夙川教会でお出合いパーティーも計画しています。ご家族の方やまわりの方、お相手探しに、カナの会をお勧めください。今は晩婚志向、少子化に対して考えるべき時ではないでしょうか。若い家庭、家族が増えますように、聖家族のご加護をお祈りします。



## 来住英俊著「気合の入ったキリスト教入門」を紹介する

### I 根本問題をつかめ！、II イエス登場！、III イエスと歩め！



御受難修道会の来住英俊神父が「気合の入ったキリスト教入門」（以後、「入門」と略記する。新書版3分冊で総671ページ）の各巻に副題を付けて2013年4月から2014年1月にドン・ボスコ社から著わされた。来住神父は「キリスト信者は何を信じているのか」と

「何が人の生き方を難しくしているのか」、「何が人の生き方を導くのか」を旧約聖書と新約聖書や古今東西の書籍、ご自身の経験を基にして、生活者向けに客観的に、気合をいれて、語り掛けております。

「入門」の各巻の「はじめに——この本の読み方」には、キリスト信者でない人とキリスト教信者には別々な「入門」の読み方を勧めております。それに「入門」の全巻を読んだ大山利郎さんの読書感想文が続きます。

#### 「はじめに——この本の読み方」

◎キリスト信者でない人のために——1. この本は、「キリスト信者でない人のために」書かれています。2. キリスト教信仰を、美しい宝石としてではなく、現代の日本の苦境の中に置いて、提示したつもりです。3. 本文を、はじめから、どんどん読んで下さい。必要な聖書箇所は全部入っています。4. 時々本文の流れの中から出て、周りを見渡す時間も必要です。補説的な脚注はそのために在ります。全部読む必要はありません。

◎キリスト信者のために——1. 信者がこの本を買って、信者でない人に手渡すことを期待しています。例えば、奥さんがご主人に、父親が娘に、先生が生徒に、友人が友人に。2. 手渡す場合、自分でも読んでおいて下さい。対話の材料になるかも知れないからです。「こんなことが書いてあったけど、君はどう思っているんだ？」みたい。3. 信者の読者は、私の書いていることに全部賛成する（弁護する）必要はありません。（中略）5. 信者しか興味を持たないことは、脚注に書くようにしています。6. (略)

### 深い思考、サラリと表現——老信者も燃えました

大山利郎

来住英俊神父様の、この本を読んで「きりしとほろ上人伝」を思い出しました。芥川龍之介の小説です。シリアの人、聖クリストファが、大河で渡し守として奉仕。ある時小さな男の子を背負って対岸に渡りました。中流で急に重くなり、次第に大盤

石のように。おぼれ死ぬような思いで、やっと対岸にたどり着いた時、声が聞こえました。

「重かったろう。お前は世界の苦しみを担ったキリストを担ったのだ」。

さて、この本も、初めはすごく読みやすい。つまり「担ぎやすい」。注釈も気配り溢れている。ところが途中から突如、難解になるのです。師は、深く考えた信仰の内容を、何気なくサラリと表現されます。読者は分かった気になってしまいますが・・・どっこい油断は大敵！

### ☆原罪とは「怠惰」☆

一例を挙げると「原罪」。

私は後期高齢期直前で、長崎出身の司祭から洗礼を受けました。昔の公教要理を学んだ「長崎型信仰」の人間です。原罪を次のように理解していました。

「人間が神になろうとする『傲慢』の罪である」。来住師も「カトリック教会のカテキズム」を根拠に、このように引用されています。

ところが師自身の考えは独創的なのです。「これは西洋的解釈。日本人には馴染みが薄い。日本的には『怠惰』とすべき。エバがリンゴを食べる前に神さまに『食べていいですか』と相談すべきであった。それをしなかったのが原罪。要するに怠惰の罪」(第I巻164-171頁)。

私は思いました。なぜ神さまに相談しなかったか。人は誰でも、他者の指示に従うのが嫌なのです。自分の判断で行動したい。神さまの指示に対してもそうです。この様に考えれば、傲慢も怠惰も、ともに神への従順を放棄、結局同じ内容だと思いません。

正三角形とは三辺の長さが等しいもの、というのが通常理解です。ある研究家が、「一つの角が60度、隣の角が60度のような三角形」といったとします。それはそれで正しい。むしろ斬新な表現でしょう。

師の説には、こんな例が多い。よく考えて、独自の言葉で表現されます。でも結局は、伝統的な教えとは少しも矛盾しない。

### ☆ゆるされるかしら☆

さて「長崎型信者」である私は、洗礼を授けてくれた司祭から教えてもらいました。「汝の四終を思え。されば罪を犯さざるべし」。四終とは死・審判・天国・地獄です。最近はこんなこと、あまり語られないそうです。神のお恵みで、高齢期まで生かして貰った私ですが、ひどい誘惑もありました。もう転落寸前。そのとき、罪と闘う強力な武器となったのが「地獄の教え」。辛うじて持ちこたえましたね。以来、四終を教えてくれる書物や司祭には、大きな信頼を抱いています。特効薬を出してくれる医師に対するように。

この点、来住師はどのように考えておられるか。地獄の存在を、概略次のように示唆されています。(第III巻204頁)。

「仲の良い夫婦の、夫の方がひどい浮気。優しい妻はゆるす。夫がまた裏切る。妻がまたゆるす。・・・しかし、夫がどんな酷い裏切りをしようと、『妻が必ずゆるす』と始めから決めてあるのであれば、それは本当の結婚とは言えないのではないですか」。

### ☆美しい煉獄の苦しみ☆

さらに少し先に、煉獄についての考察があります(同206頁)。

『煉獄での償いは、針の山や血の海のような苦しみではありません。一つは、自分が地上で他人に与えた苦しみが痛切にわかるようになるということです。この地上では、自分が生きるのに一生懸命です。かなり善良なはずの人でも、自分が他人にしてきた仕打ちの酷さが、本当にはわかっていない。・・・煉獄ではそれが身を切るようにわかる場所なんだと思います』。

本当に美しい考察ですね。

私が親しい人の葬式に臨んで、「この人は、私との交わりのために、こんな苦しみ耐えている」と意識すれば、祈りはもっと親身になると思います。

### ☆「考え方」を刺激☆

この書の顕著な特色は、内容もさりながら、「考え方」を刺激してくれる事でしょう。私のような老耄信者は、原罪などという超基本的な事を考え直すなど、想像も出来ませんでした。そんなところでも来住師の「考え方」を応用すると、何かしら生気が発生するようです。

またこの「考え方」、次のように応用できるかしれません。

師は煉獄の項でおっしゃいました。

「善良なはずの人でも、自分が他人にしてきた仕打ちの酷さが、本当にはわかっていない。・・・煉獄ではそれが身を切るようにわかる場所なんだと思います」。

### ☆美しい苦しみ・沈黙の金☆

「なるほど！立派な指摘だ」。私は感激居士にとどまるだけだったかもしれせん。でも師の「考え方」を応用しました。

「この事実は、余所目には美しいが、煉獄の本人また現世に生きている人間には、あまり役立たない。この苦しみは美しいが、経験しない方がよい。命あるうちに、不注意にも他人に加えた酷い仕打ちを、なくす努力をしたい。さてこちら、加齢で体が動かず、短気、酒癖、大声、不機嫌いずれも増すばかり。家族に迷惑かけっ放し。どうするか。そうだ！『沈黙は金』に徹するのだ」。

実行できるかどうかは覚束ないが、意識の上では少し改善されたのでは・・・？



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

6月18日(木) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父

6月19日(金) 10:00 ~ 15:30 指導：山内十束神父



### ■ 週末黙想会

6月27日(土) 17:00 ~ 28日(日) 15:30 指導：山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

## 編集後記

来住英俊著「気合の入ったキリスト教入門 III イエスと歩め!」には、『肝心なことは神と共に歩み、継続的に神と対話し続けることであって、聖書を読むこと、ミサのような儀式、瞑想などの修業は、キリスト信者が少しずつ神の御旨とシンクロナイズするためです。』とあり(139ページ、一部省略)、体験したことを頭のレベルによる、心のレベルによる、からだのレベルによる納得があって、からだのレベルで納得するには最も長い時間が必要だがその場合には生き方が変わるという意味の文がある(78ページから)。上記の文(『---』)を納得する転機となったのは本年3月から持たれた「みことばの分かち合い」の場と復活節第5主日ミサにおける司祭神父様の言葉「(パウロはその時、)自立する自己が信じる自己中心の生き方から神から与えられた恵みによる神中心の生き方へ変換(した)。」、復活節第6主日ミサにおける司祭神父様の言葉「他者のために命を与えるほどの愛は神だけが持てる愛です。」でした。神に感謝!

インマヌエル

